

トルコ 今シーズンのサクランボの70～80%に被害

[FreshPlaza](#) 2025年6月12日

トルコの果実輸出業者デミルフレッシュフルーツ(DFR)社のオーナーであるアルペル・ケリム氏は、損失は甚大であり、トルコのサクランボシーズンの困難な状況の中に前向きな点を見つけるのは難しいとして、「現在のトルコの状況を見ると、今の時点で十分な生産物が無いことは明らかである。総生産量については、今シーズンのトルコ産サクランボの70～80%が被害を受けた」と述べている。(以下「」は同氏の話)

ケリム氏は、果実の入手が極めて難しくなるため、サクランボの価格は天井を突き抜けると予想している。「当然のことながら、これらの被害の結果として、今シーズンの輸出可能量は減少する。実際に販売できるサクランボがある地域は、非常に高い価格を要求するだろう。これは、複数の市場で供給不足の影響(価格の上昇)が現れるため、輸出業者は適切な価格が提示されるのを待つしかないことを意味している。」

これまでのところ、国内市場はまだ好調であるため、入手可能なサクランボの販売に関しての制限はないと同氏は説明する。「国内市場では買い手は入手可能な限られた量を購入しており、依然として非常に堅調であるため、トルコ政府は介入していない。このサクランボシーズンは、大変静かで落ち着いた形で過ぎていくと思う。今シーズンに期待していた人達にとっては残念なことである。弊社の場合、自社の果樹園にはサクランボがあるが、そこでの収穫も限られている。」

全体として、トルコのサクランボ関係者は、このシーズンをできるだけ早く忘れたいようである。そのため、同社は、それほどダメージを受けていない他の果実に移行する。「弊社では現在、モモのほかアンズなどの他の核果類に力を入れている。これらの品目はどちらもサクランボに比べて被害ははるかに少ない。核果類の出荷シーズンが終わったら、再び視点を切り替えてリンゴの新シーズンに備える。」

執筆者: ニック・ピーターズ (翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

米国 農業労働力不足を緩和する大統領令を計画

[FreshFruitPortal](#) 2025年6月13日

ロイター通信が伝えるところによれば、ドナルド・トランプ大統領は木曜日(12日)、同氏の政権の移民に対する積極的な法執行によって引き起こされた米国の農業とホスピタリティ産業(ホテル、レストラン、レジャー業界)の労働力不足に対処することを目的とした大統領令に「かなり近いうちに」署名する予定であると述べた。

トランプ大統領は、農場やホテルから強制送還されている不法就労者の多くについて代替が難しいことを認め、彼らを「経験豊富」と呼び、雇用主の負担を指摘した。この発言は、労働力の混乱をめぐる業界団体からの圧力の高まりに政権が直面している中で著しいトーンの変化を表している。

ブルック・ロリンズ農務長官は、大統領は生産者を支援するため、工具箱の中の利用可能なあらゆる道具を探していると述べたが、長期的な解決策には議会の対応が必要となる可能性が高いと付け加えた。

同長官は大統領の発表を受け、CNBC(ビジネスニュース専門チャンネル)のインタビューで、「大統領は、労働力なしには我が国や世界の食料を賄えないことを理解しており、そのことについて生産者の声に耳を傾けている」と語った。

全米農業連盟(AFBF)等の農業団体は、強制送還の増加がコロナ禍の際に見られたようなサプライチェーンの混乱につながる可能性があるかと警告している。米国内の200万人の農業労働者の約半分は、不法滞在者であると推定されている。

ありうる大統領令の詳細については依然として不明であるが、政権がそのような動きを公に検討していることは、移民政策と主要産業における不法就労への経済的依存との間の緊張関係を浮き彫りにしている。

(訳注: 続報によると、国土安全保障省は6月17日までに、強制送還措置が一時的にほぼ停止していると認めました。)